特定非営利活動法人 ドクターMAYA 人道基金
2022年 ニュースレター
http://dr-maya.net/

＜ 疫病とセラピードッグ ＞

通天閣が赤くなり（街のシンボルタワーがコロナ警報板に変えられて２年余）、クリニックモールが閑散としても（時短・休診等々）、検査結果の改善で、再び診察室への入室許可が出た患者さんの笑顔に励まされ、〝先生もどうか気をつけてください〟と、教壇の隣室でクラスターが発生しているという若い教師達にエールを送られる日々。

感染リスクの高い医療職や教職の多い我がクリニックの待合室を、久しぶりにセラピードッグが訪れました。
消毒薬の臭いも嫌がらず、リュックを背負って、少々めげているクリニックモールを激励訪問しました。

防御服・消毒・責任感がずっしりとのしかかり、さすがに元気印のスタッフにも疲労の色が隠せません。
チャリティー活動が自分たちにも必要になって２年余。
優しくスキンッシップしてくれるボブと過ごすひとときが、ソーシャルディスタンスの時代にはかけがえのない時間です。
高齢に入ったメリーは、そんなボブの活躍をしっかりと後押ししています。

甘えん坊のボブと　陽気なメリーの　二頭のセラピードッグと過ごす日常が、つつがなく流れ、世情のパニックが鎮まる事を願いつつ、今日も早朝散歩に出かけます。